

鹿児島の植物61

鹿児島のラン

植物担当 久保紘史郎

春から夏の初めにかけて森の中では多くのランが花を咲かせています。薄暗い森の中で咲く姿はまるでスポットライトを浴びた女優のよう。美しいランの花を紹介します。

セッコク (ラン科)

老木や岩上などに着生する。学名は *Dendrobium moniliforme* で洋ランのデンドロビウムの仲間。鎮痛や解熱などの作用があり漢方薬として用いられる。花期は5月中旬



セッコク(ラン科)

ウチョウラン (ラン科)

小型のかわいらしい花が特徴。やや湿った岩場などに生育する。蝶が羽ばたいているように見えることから漢字で羽蝶蘭と書かれることが多い。花期は7月上旬



ウチョウラン(ラン科)

ガンゼキラン (ラン科)

根元が岩石のように大きく膨らむのが特徴。大きく派手な花は鑑賞価値が高いため乱獲され個体数を減らしている。現在は鹿児島県の条例によって採集が禁じられている。花期は5月中旬



ガンゼキラン(ラン科)

エビネ (ラン科)

地下部が海老のように見えることからその名が付いた。花が黄色いキエビネやピンク色の花がうつむきがち咲くキリシマエビネなどの種もあり、またこれらの雑種もある。花期は4月中旬～5月上旬



エビネ(ラン科)

鹿児島の地質42

スレッドレーススコリア

地質担当 多久島 徹

平成28年4月19日、当館が収蔵する『スレッドレーススコリア』が県の天然記念物に指定されました。

このスコリアは桜島の大正噴火（大正3年）のときの噴出物で、長さ2mもある軽石状の大きな岩塊です。当時、鹿児島女子師範学校の教師であった山口鎌次氏（のちに島根大学教授）によって、湯之平の東斜面で発見されました。

スコリアは、軽石と同じように、たくさんの穴があいていますが、これは噴出した溶岩

の中に含まれていたガスが分離してできた気泡です。スレッドレーススコリアは極端に発泡していて、ちょうど石鹼水にスト



表面

ローで息を吹き込み、ぶくぶくと泡立った状態のまま固まったようなものです。気泡と気泡の間の壁が破れ、糸状となって立体的な格子状構造をつくっています。

この標本は構造が珍しいというだけではなく、桜島大正噴火時の噴出物として、学術的にも歴史的にも貴重な資料です。じっくりとご覧ください。